

在宅医療及び在宅緩和ケアの実態に関するアンケート調査①(全般)

※本アンケートは、本年9月1日時点で施設基準の届出をしている医療機関にお送りしています。

【回答に際してのお願い】

- ◆ 病院を代表できる医師の方（または、その方の代理として回答できる方）からの回答をお願いいたします。質問内容により部門をまたぐなどお手数をお掛けしますが、取りまとめた回答に御理解・御協力をお願いいたします。
- ◆ 緩和ケアに関する設問（別紙の調査票②）については、貴院において緩和ケアを担当する医師の方（または、その方の代理として回答できる方）からの回答をお願いいたします。緩和ケアを担当する医師の方がいらっしゃらない場合は、がん診療に携わる医師の方など、緩和ケアについてお答えできる方からの回答に御協力ください。
- ◆ 特に断りのない場合は、本年10月1日現在の状況についてお答えください。
- ◆ 該当する選択肢の番号に○をつける等、各問の案内に沿って御記入ください。「その他」を選択した場合は、内容を御記入ください。

【本調査における言葉の定義】

訪問診療	日頃から医師が定期的に患者の自宅等へ訪問し、計画的に診療、治療、薬の処方、療養上の相談、指導等を行うこと
往診	突発的な病状の変化に対して、患者の依頼により緊急的に自宅等に行き、診療を行うこと
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)	今後の治療・療養について、患者・家族と医療・介護従事者があらかじめ繰り返し話し合っておく自発的なプロセス

問1. 貴医療機関の基本情報についてお伺いします。

1-1. 医療機関名			
1-2. 本年7~9月の外来延べ患者数 (初診+再診、整数記入)	本年7月 人	本年8月 人	本年9月 人

問2. 在宅医療（訪問診療・往診）の実施状況と今後の実施見込みについてお伺いします。

2-1. 現在、訪問診療や往診を行っていますか（あてはまるものに1つに○）。

- 1 訪問診療も往診も
行っている 2 訪問診療のみ行って
いる 3 往診のみ行っている 4 訪問診療も往診も
行っていない

2-5. 在宅医療の提供件数を増やすには、何が重要だと思いますか（あてはまるもの3つまでに○）。

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 自院の在宅医療に関わる医師の増員 |
| 2 | 自院の在宅医療に関わる医師以外のスタッフの増員 |
| 3 | 在宅医療を行う診療所との連携（後方病床の確保などを含む） |
| 4 | 訪問看護ステーションとの連携（提携先事業所を増やすなど） |
| 5 | 他の病院との連携 |
| 6 | 在宅療養支援病院の届出を行う等による診療報酬の増収確保 |
| 7 | 退院後のスムーズな在宅移行の実現 |
| 8 | （提供側の体制はあるので）患者・家族への周知と需要・ニーズの発掘 |
| 9 | 訪問診療に係る現行の診療報酬の引き上げ |
| 10 | 訪問診療に係る現行の診療報酬の引き下げ（患者の負担を軽減するためなど） |
| 11 | その他（ <input type="text"/> ） |

問 3. 入退院支援の状況についてお伺いします。

3-1. 入退院支援の開始時期について最も多くあてはまる時期をお答えください（あてはまるもの1つに○）。

- 1 入院時
2 期間を決めて定期的に
3 患者・家族から希望があった時
4 各医療従事者が必要と判断した時（必要に応じて）
5 その他（）

3-2. 院内に入退院支援を専門に行う部署は設置していますか（あてはまるもの1つに○）。設置している場合は職員配置の内容を、設置していない場合は今後の設置予定についてお答えください。

- 1 設置している
2 設置していない
- 2を選択した方のみ御回答ください
- ・設置予定の有無
あり ・ なし

入退院支援を専門に行う部署の従事者数（常勤換算）	看護師	専従	人	専任	人
	社会福祉士	専従	人	専任	人
	MSW	専従	人	専任	人
	その他	専従	人	専任	人

3-3. 入院患者の退院時カンファレンス（退院後の受入先医療機関等との情報共有のために行うカンファレンス。以下、同じ）について、開始時期の基本方針をお答えください。なお、急に退院が決まる場合を除きます（あてはまるもの1つに○）。

- 1 入院前
2 入院後1週間以内
3 入院後2週間以内
4 入院後1か月以内
5 退院の1週間前
6 退院の数日前
7 退院直前
8 わからない

3-4. 入院患者の退院時カンファレンスにおいて、参加を依頼する施設についてお答えください（あてはまるもの全てに○）。

- 1 診療所
2 訪問看護ステーション
3 居宅介護支援事業所
4 介護事業所（施設含む）
5 薬局
6 地域包括支援センター
7 歯科診療所
8 その他（）

3-5. 退院患者が円滑に在宅医療に移行できているかについてお答えください(あてはまるもの1つに○)。

- 1 大半のケースにおいて 2 半数のケースにおいて 3 あまり円滑に移行で 4 全く円滑に移行でき
円滑に移行できている 円滑に移行できている きていない きていない

3-6. 退院患者の在宅医療への円滑な移行を阻む理由についてお答えください(あてはまるもの3つまでに○)。

- 1 患者本人には在宅療養の希望があるが、家族への気兼ね(迷惑をかけたくない等)がある
- 2 家族からの反対がある
- 3 在宅で介護できる家族・親戚がいない
- 4 患者本人や家族に主治医(担当医)が代わることにに対する不安がある
- 5 病院が在宅医療に関する注意事項(日常の処置、投薬、医療機器等)を患者に伝えきれない
- 6 病院に退院支援を十分に行う余裕や体制がない
- 7 病院に退院支援を行うスキルを持っている医療従事者が不足している
- 8 かかりつけ医等、地域の医療・介護スタッフとカンファレンスを十分に実施できていない
- 9 病院が在宅医療に積極的ではない(訪問診療等を積極的に行わないなど)
- 10 病院スタッフの在宅医療に対する知識・理解が不足している
- 11 地域に緩和ケアに必要なスキルを持っている医療従事者が不足している
- 12 地域に患者の看取りができる医療従事者が不足している
- 13 地域において、在宅医療やケアに必要な医療機器や薬剤等の医療資源が不足している
- 14 在宅医療の受け手側(診療所、訪問看護ステーション等)に退院支援を十分に行う余裕や体制がない
- 15 患者の急変時の対応が難しい
- 16 その他()

問4. ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実施状況についてお答えください

4-1. ACPを実施していますか(あてはまるもの1つに○)。

- 1 実施している 2 実施していない 3 ACPを知らない

4-2. 4-1.で「2 実施していない」と回答した方に伺います。実施していない理由は何ですか。

問5. 他の医療機関や介護事業所等との連携状況についてお伺いします。

5-1. 他の医療機関や介護事業所との間で、患者に対する情報をどの程度やりとりしていますか。太枠の中についてそれぞれ◎、○、△、×のいずれかでお答えください。

◎：週に数回 ○：月に数回 △：適宜 ×：なし

自施設以外の 医療機関 (病院)	自施設以外の 医療機関 (診療所)	薬局	PTやOT等 のリハビリ	訪問看護 ステーション	居宅介護支援 事業所	地域包括支 援センター	訪問介護 事業所	歯科 医療機関	その他 (施設など)

5-2. 他の医療機関や介護事業所との協力・連携について、どの程度できていると思いますか。太枠の中についてそれぞれ◎、○、△、×のいずれかでお答えください。

- ◎：必要な協力・連携ができている
- ：ある程度協力・連携しているが、やや課題がある
- △：あまり協力・連携していないが、今後よりしていきたい
- ×：あまり協力・連携しておらず、現状その必要も高くない

自施設以外の 医療機関 (病院)	自施設以外の 医療機関 (診療所)	薬局	PTやOT等 のリハビリ	訪問看護 ステーション	居宅介護支援 事業所	地域包括支 援センター	訪問介護 事業所	歯科 医療機関	その他 (施設など)

在宅医療を提供していない施設(「2-1」で選択肢4を選択した施設)は、以上となります。
問7の自由意見について、ぜひ御回答ください。

※これ以降は、現在在宅医療を提供している施設のみ御回答ください(「2-1」で選択肢1・2・3を選択した施設のみ)

問6. 在宅医療等の実施状況についてお伺いします。

6-1. 在宅医療に対応している職員についてお答えください。

在宅医療のため患者宅に 訪問する常勤換算職員数 【数値記入、小数第1位まで】	医師	薬剤師	看護師	その他(医療事務等)
	人	人	人	人
在宅医療を行う医師の 年齢別人数	39歳以下 (人)	40歳代 (人)	50歳代 (人)	
	60歳代 (人)	70歳代 (人)	80歳以上 (人)	

6-2. 在宅医療の実施状況をお答えください。

(※②⑧における「自宅」とは自宅及びサービス付き高齢者向け住宅としてください。)

本年9月の1か月 間の実績	①在宅医療の対象患者数(実人数)	人	
	②うち、自宅で療養されている方 ※	人	
	③総訪問回数	訪問診療	回
		往診	回
	④訪問診療や往診に対応している日数(1週間あたり)	日	
⑤最も距離が遠い患者宅までの自動車での移動時間	片道 約	分	
1年間(昨年10月 ～本年9月)の 実績	⑥在宅医療の対象患者のうち、亡くなられた方(場所問わず)	人	
	⑦うち、在宅(病院、有床診療所以外)で亡くなられた方	人	
	⑧うち、自宅で亡くなられた方 ※	人	

6-3. 対応している在宅医療の処置についてお答えください（あてはまるもの全てに○）。

1 麻薬管理	9 在宅酸素療法
2 経鼻経管栄養	10 人工肛門ケア・人工膀胱・尿管皮膚瘻
3 胃ろう・腸ろう管理	11 褥瘡処置
4 在宅中心静脈栄養	12 褥瘡以外の創傷管理
5 精密輸液ポンプ管理	13 腹水排液
6 膀胱留置カテーテル（男性のみ）	14 在宅人工呼吸器管理
7 膀胱留置カテーテル（女性のみ）	15 リハビリテーション指導
8 膀胱留置カテーテル（男性・女性両方）	16 その他（ ）

6-4. 対応可能な疾患についてお答えください（あてはまるもの全てに○）。

1 がん疾患	5 認知症
2 脳血管疾患	6 精神、神経疾患（認知症除く）
3 循環器・呼吸器疾患	7 整形外科疾患
4 糖尿病	8 その他（ ）

6-5. 特に在宅での看取りにおいて、医療・介護提供側で問題・課題になっていることをお答えください（あてはまるもの全てに○）。

1 ACPや在宅看取りなどについて、患者や家族に理解を深めてもらうことが難しい（時間が確保できない等）
2 自院の医師や看護師等、医療従事者のスキル・ノウハウに不安がある
3 連携先の医師や訪問看護師等、医療従事者のスキル・ノウハウに不安がある
4 連携先のヘルパー等、介護従事者のスキル・ノウハウに不安がある
5 自院の医師や看護師等、医療従事者の人手が不足している
6 その他（ ）

6-6. 特に在宅での看取りにおいて、患者・家族等側の問題・課題として実際に起こったこと（経験したこと）をお答えください（あてはまるもの全てに○）。

1 在宅での看取りに関する知識・理解が、患者になかった
2 在宅での看取りに関する知識・理解が、同居家族になかった（反対された）
3 在宅での看取りに関する知識・理解が、非同居の親類等になかった（反対された）
4 独居で親族の支援等がなく、在宅での生活の継続そのものが困難だった
5 在宅での看取りに関する知識・理解が、患者の在宅生活を支える看護・介護職員になかった（反対された）
6 その他（ ）

問7. 在宅医療全般に関する課題についてお伺いします。

7-1. 在宅医療全般に関する課題があれば、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。

この回答用紙を、返信用封筒にて御返送ください。